

## BL 書籍を読みつづける理由 —読者の自己意識と物語における読者の視点—

松崎 愛

「BL」と呼ばれる男性同士の恋愛をテーマにした作品は、以前は限られたコミュニティ内での流通に留まっていたにもかかわらず、近年では社会に浸透しつつある。そこで、BLの愛好者がどのような意識をもって愛好を続けているのかに興味をもった。金田（2007）や溝口（2015）は、主にBLが愛好者や社会に与える意義を見出したが、愛好者の語りに着目した研究は進んでいない。またBLの女性愛好者を指す「腐女子」が愛好者の自称として用いられた背景には、BL愛好への自虐があると指摘されている。これらの研究で挙げられた腐女子の特徴には、現在の愛好者とのずれが感じられる。

本研究は、愛好者の特徴となる要素を参照しつつ、現在の愛好者がBL書籍を読み続ける理由を、個人のライフストーリーに基づいて明らかにすることを目的とする。彼らに対し読者としての自己意識や、読む際の視点をインタビューした。BLの作品形態は様々だが、本研究は条件の統制のため、主要な作品形態である漫画や小説を合わせて「BL書籍」とした。

5名の調査対象者にインタビューを行った結果、そのほとんどが、恋愛関係にある二人が「対等な関係性」であることを求めることが分かった。また、先行研究で指摘された特徴に合致した対象者と、全く逆の特徴を示した対象者という両極端なケースがみられた。前者に当てはまるEさんは、BLを愛好する自身にネガティブな意識をもち、また自分を腐女子と称し、BL書籍を読む際の視点も登場人物の目線にはならない「俯瞰」だと語った。一方で後者に当てはまるDさんは、BL書籍を少女漫画等の一般的な読書趣味と同様に捉えており、登場人物の主人公になりきり「感情移入」して読んでいる。また、「腐」という言葉のネガティブさに違和感を抱くと語った。対象者のBL愛好者としての特徴は、この二人を両端にグラデーションで表現できる。調査対象者のBL愛好者としての姿勢には、個々人のライフストーリーが強く影響している。両親が教師であるEさんは、過保護な親に対してBL愛好がばれてしまった経験に、今でも罪悪感を抱いている。また、Dさんは男性だが、幼少期から姉と仲良く、親しい人物も女性ばかりであった経験から、男性がリードするような恋愛でのふるまい方に疑問を感じ、BL書籍に描かれる対等な恋愛に共感している。

BLを一般的な趣味と考え自虐を行わなくなった愛好者がいる一方で、BLの大衆化を感じながらも旧来の特徴を残したままの愛好者も存在する。しかしこの差異は、単にBLの大衆化の影響だけでなく、これにより多様化が許されるようになった愛好者としての姿勢を、個々人が選び取った結果である。そして愛好者の取る姿勢こそ差異はあるが、彼らは自身の恋愛観に寄り添う、また自身が理想とする対等な関係性の恋愛物語として、BL書籍を求めている。

（指導教員 後藤嘉宏）